

営農情報（麦）

第36号 平成31年3月20日

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 生育概況

本年の麦は、生育期間中の高温の影響により、出穂期が平年に比べ7～10日程度早くなると予想されます。播種時期の違いにより麦の生育が大きく異なっていますので、生育に応じた適期作業の徹底をお願いします。

また、今後の降雨による麦への影響は大きいので、枕地のまわりや排水溝を整備し、ほ場内に滞水しないように排水対策を徹底してください。

予想出穂期	シロガネコムギ、ちくしW2号とも
11月20日播き	3月30日頃
12月1日播き	4月5日頃

2 赤かび病防除

小麦の防除適期は、出穂期から7～10日後の開花期です。ほ場ごとの生育を確認し、適期に防除するよう心がけてください。

<防除適期>※11月下旬播種の場合 シロガネコムギ・ちくしW2号 4月8日～12日頃

出穂前後に気温が下がると、出穂及び開花が遅れるので、上記防除適期より遅くなる場合があります。開花（白い葯が見える）を十分確認し防除を行って下さい。

薬剤名	10aあたり使用量	使用回数など
トップジンM粉剤DL	4kg	出穂期以降 <u>2回以内</u>
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍（液量100ℓ）	
トップジンMゾル	1,000～1,500倍（液量100ℓ）	
トップジンMゾル	8倍（0.8ℓ）	無人ヘリ防除

※出穂期に「降雨+温暖」の気象条件が続くと、赤かび病が多発する恐れがあり、2回目の防除が必要になる場合があります。特に「ちくしW2号」は赤かび病にやや弱いため注意が必要です。

※散布は、朝夕の風のない時に行いましょう。隣接ほ場に他作物が作付されている場合は、農薬がかからないよう特に注意して下さい。

3 穂揃期追肥

「ちくしW2号」は、タンパク質含有率12%を確保する必要があります。穂揃期（全莖数の80%以上が出穂した日）から2週間以内を目安に追肥を行うことで、タンパク質含有率を高めることができます。硫安の散布量の目安は、以下のとおりです。

穂揃期に10a当たり硫安10kgを施用するか、赤かび病防除と同時の尿素葉面散布を行います。

※追肥に「硬質小麦専用追肥」以外の肥料（NK7号など）を施用した場合

穂揃期に10a当たり硫安20～25kgを施用するか、赤かび病防除と同時の尿素葉面散布を2回行います（1回目と2回目の間は、1週間程度空ける）

～赤かび病防除と同時の尿素葉面散布の方法～

赤かび病防除時期（開花期）に、10a当たり尿素4kgと農薬を、水100ℓに溶かして散布します。なお尿素葉面散布の場合、晴天で気温が高い日などは、葉先や芒が若干枯れますが、粒の充実や収量への影響はありません。

また、散布後は散布器具が故障しない様、洗浄を入念に行います。（ノズル、ホースだけでなく、器具全体を水洗いする）

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！

農作業事故のない豊かな実り、あなたから